

伝 吉見百穴出土遺物

地元の大澤家には明治20年（1887年）の坪井正五郎による発掘調査で出土した遺物が残されています。
須恵器(すえき)や勾玉(まがたま)、管玉(くだたま)、耳環(じかん)、直刀(ちよくとう)、鉄鏃(てつぞく)、閉塞石(へいそくせき)等があります。（大澤家蔵）



ひらか
平瓶



ひらか
平瓶



たんけいこ
短頸壺



たんけいこ
短頸壺



ちようけいへい
フラスコ形長頸瓶



たかつき
高坏



たかつき
高坏



きゃくつきぽ
脚付壺



はそう
壺



さげべい
提瓶



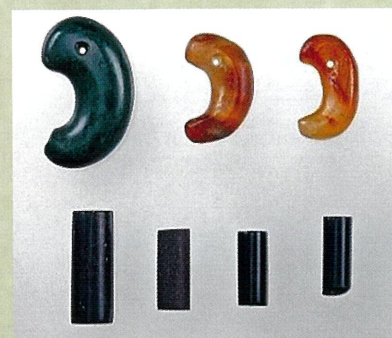
さげべい
提瓶



じかん
耳環



こんどうかなぐ
金銅金具



たまらい まがたま くだたま
玉 類(勾玉・管玉)



てつぞく
鉄鏃



たちるい
大刀類

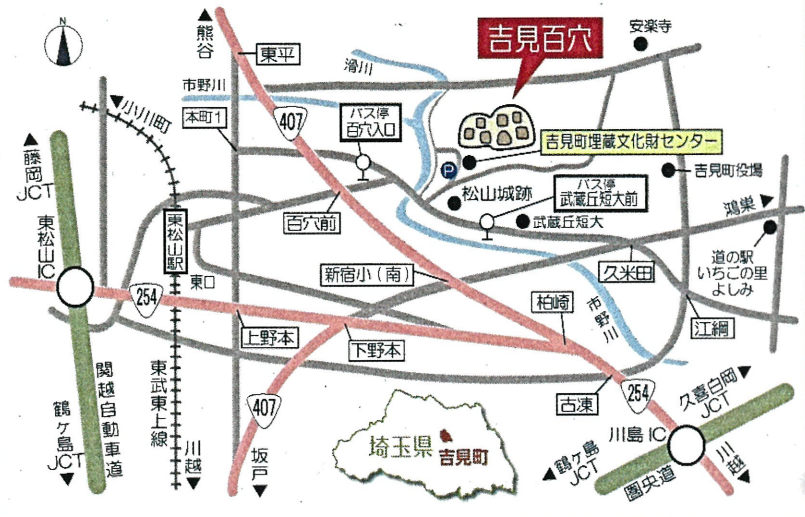


たちるい
大刀類

所在地 〒355-0155 埼玉県比企郡吉見町北吉見324番地
営業時間 8時30分～17時 ※入館は16時30分まで
定休日 年中無休(体験学習のみ年末年始休み)
料金 大人 300円(中学生年齢以上)
子供 200円(小学生年齢以上) ※小学生未満無料
団体(20名以上) 大人200円 学生150円 小学生100円

駐車場 あり(無料)
アクセス お車でお越しの方：
関東自動車道「東松山IC」より約15分
圏央道「川島IC」より約25分
電車でお越しの方：
東武東上線「東松山駅」より徒歩30分

H P <http://www.town.yoshimi.saitama.jp/>
問合せ 吉見百穴管理事務所 ☎ 0493(54)4541
吉見町埋蔵文化財センター ☎ 0493(54)9111



国指定史跡

よしみひゃくあな

吉見百穴



歴史

吉見百穴は古墳時代の後期～終末期(6世紀末～7世紀後半)に造られた横穴墓(よこあなぼ)で、大正12年(1923年)3月7日に国の史跡に指定されています。

横穴墓は丘陵や台地の斜面を掘削して墓としたものですが、遺体が埋葬された主体部の構造は古墳時代後期に築造された古墳の横穴式石室とほとんど同じです。

吉見百穴が分布する丘陵一帯は凝灰質砂岩(ぎょうかいしつさがん)と呼ばれる掘削に適した岩盤が広がっており、当時の人々はこうした場所を選択して横穴墓を造ったと考えられます。

本来、横穴墓の入口には、緑泥石片岩(りよくでいせきへんがん)と呼ばれる深緑色をした石を板状に加工した蓋(閉塞石(へいそくせき))が立てかけられていたと思われます。

また、横穴墓の玄室(げんしつ)には、棺座(かんばんざ)と呼ばれるベッド状の施設が複数造られているものもあることから、一つの横穴墓には複数の遺体を埋葬したことが

わかります。

こうした構造から、横穴墓では一つの横穴に次々と死者を葬る追葬(ついそう)が行われていたと考えられています。

吉見百穴は、明治20年(1887年)、東京帝国大学(現 東京大学)の大学院生であった坪井正五郎(つばいしょうごろう)が地元の人々の協力を得て全面発掘を行い、237基の横穴を発掘しました。

その結果から、横穴の性格をめぐる「住居か、墳墓か」という激しい論争が繰り広げられますが、その後の研究によって「横穴は墓である」という結論に至ります。

その後、太平洋戦争末期(1944～1945年)には、戦局の悪化に伴い吉見百穴一帯の丘陵斜面に地下軍需工場が造られ、巨大なトンネルが数多く掘られます。そのため十数基の横穴墓が壊されてしまい、現在確認できる横穴墓の数は219基となっています。

埼玉県・吉見町

発掘当時の吉見百穴



明治20年頃 (大澤家蔵)

吉見百穴は、既に江戸時代の中頃には数基の横穴が開いており、地元の人々から『百穴(ひゃくあな)』と呼ばれていましたが、その性格については、わかっていませんでした。

明治20年(1887年)坪井正五郎(つばいしょうごろう)は横穴の性格を明らかにするため、当時の青山(かぶとやま)村(現熊谷市)の根岸武香(ねぎしたけか)や地元の大澤藤助(おおさわとうすけ)らの協力を得て、約6ヶ月間に及ぶ全面発掘を行い237基の横穴を発掘しました。

太平洋戦争後、吉見百穴は一時荒廃した状態となりますが、昭和25年(1950年)に結成された「吉見百穴保存会」による環境整備が行われていきます。昭和29年(1954年)には金井塚良一(かないづかよしかず)の指導により、埼玉県立松山高等学校郷土部の測量調査が行われ、吉見百穴における横穴墓の研究が進められていきました。

吉見百穴横穴墓群分布図 (棺座の数の違いによる色分け)

(1975年 金井塚良一 作成『吉見の百穴』より)



横穴墓分布の特徴

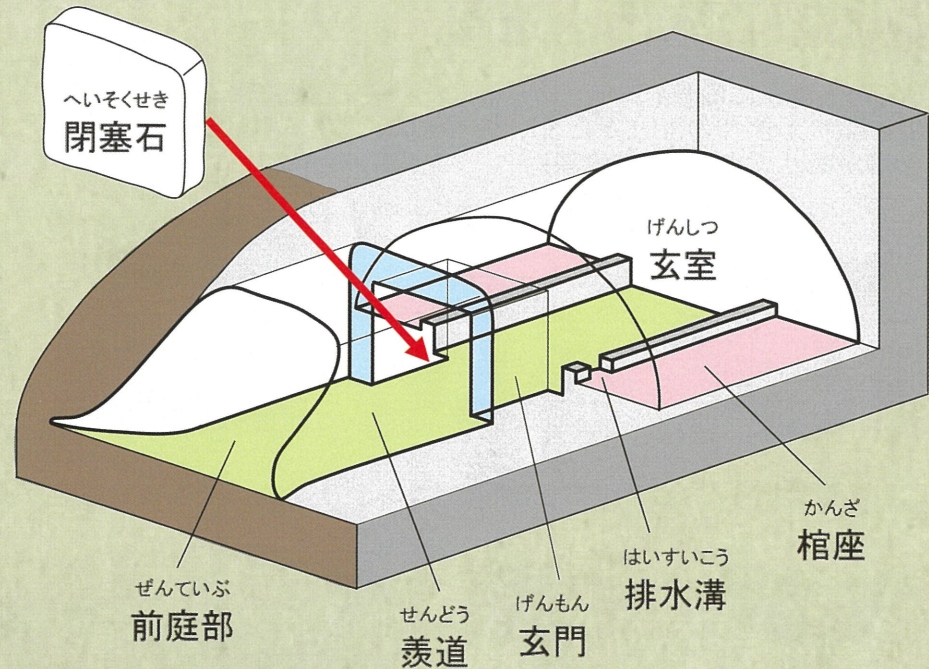
吉見百穴の横穴墓が分布する斜面は平均45度の急な勾配があり、その配列は斜面ごとに斜行する平行線上に配列されているのがわかります。



横穴墓の構造

横穴墓の構造は、大きく分けると入口から順に「前庭部(ぜんていぶ)」「羨道(せんどう)」「玄門(げんもん)」「玄室(げんしつ)」からなります。遺体を埋葬するための玄室には、棺を安置するための棺座(かんざ)と呼ばれる施設が設けられています。玄室内に棺座を造りつけるのが吉見百穴における横穴墓の特徴であり、その種類には棺座がないもの・単棺座・2棺座・3棺座のものがあります。

また、玄室の平面形態は正方形に近いものを基本として、長方形・台形・楕円形など8形式に分類され、天井の形態もドーム状を呈するものを中心に平天井など6形式に分類されています。いくつかの横穴墓には床に排水溝が設けられたものもあり、当時の工夫のあとを確認することができます。



単棺座・平天井



2棺座・ドーム天井



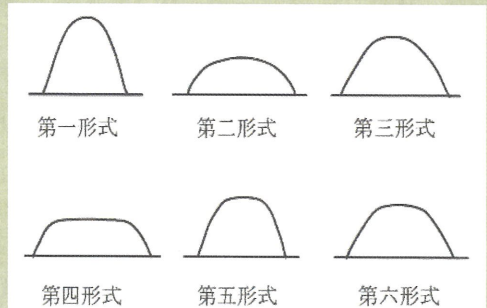
単棺座・ドーム天井



無棺座・アーチ天井



玄室の平面形態による分類



玄室の天井断面形態による分類

吉見百穴ヒカリゴケ発生地

国指定天然記念物 (昭和3年11月30日指定)

ヒカリゴケはコケ類の一種で、その名が示すとおり外から入ってくるわずかな光をレンズ状の細胞が反射して黄緑色に光って見えます。

日本では北海道と、中部地方以北の山地に分布し、涼しくうす暗い湿った環境を好むことから、関東地方の平野部に自生している吉見百穴の「ヒカリゴケ」は植物分布上も極めて貴重な存在となっています。



地下軍需工場跡

昭和19年末～20年(1944～1945年)にかけて、吉見百穴とその周辺の丘陵地帯にはアメリカ軍による空襲を避けながら航空機のエンジン部品を製造するための、大規模な地下軍需工場が造られました。

吉見百穴の地下にも巨大なトンネルが基盤の目状にいくつも掘られています。

現在、吉見百穴地下軍需工場跡内の点検・調査のため、地下軍需工場跡内には立ち入りできません。



吉見町埋蔵文化財センター

縄文時代の土器や土偶をはじめ、埼玉県指定文化財の白磁四耳壺などの出土品が展示されています。



体験学習 勾玉(まがたま)・埴輪(はにわ)づくり

※団体でご利用の場合は事前申込みが必要です。(埋蔵文化財センター ☎0493(54)9111)

※年末年始は休み

- 【勾玉づくり】
参加費/350円 所要時間/60分～90分
- 【琥珀勾玉づくり】
参加費/1,500円 所要時間/60分～90分
- 【埴輪・土器づくり】
参加費/500円 所要時間/90分～120分

